

研究ノート

モノ探しにおける具体的行為とそのモデル化の試み — “モノ探し行動” についての小考 (3) —

佐々木 土師二

An approach to the behavior of “looking-for-something” (Part 3):
Analysis of the specific actions in the search of lost objects

Toshiji SASAKI

Abstract

Specific actions in the behavior of “looking-for-something” were compiled from 10 internet-sites, and were classified into two categories, namely, actual performance and readiness to act. The actual performance consisted of 12 types of actions, and they were classified into 3 phases of decision process of the search behavior, as follows: start, searching and finish phases. Subsequently, a two-dimensional model was proposed for each of actions in the “start-phase” and the “searching-phase”.

Keywords: Specific action in looking-for-something, actual performance, readiness to act, two-dimensional model.

抄 録

モノ探し行動の具体的な実行行為のリストがインターネットの10サイトで収集され、それらの項目が(a)行為の実施・遂行、(b)意欲の喚起・保持に2分類されたうえ、(a)の項目群は12カテゴリーに細分された。これらのカテゴリーは、モノ探し行動の“開始→探索→終了”という進行状況に応じて整理され、そのうえで“開始”に関しては「接近方略モデル」として、“探索”に関しては「探索地点内行為モデル」として、それぞれ2次元図式モデルで描き出された。また、インターネット情報の利用について考察された。

キーワード：モノ探しの具体的行為、接近方略モデル、探索地点内行為モデル、2次元図式モデル。

はじめに：モノ探しの“具体的行為”への着目

われわれは「さがしもの（捜し物、探し物）」を日常的に経験しているが、その言葉には「探すモノ（物）」と「モノを探す行動」という二つの意味が含まれている。そこで、後者の“行動”の面を「モノ探し行動」と呼んで、その行動の基本的性質が“探索区域を狭くする”と“探索時間を短くする”という二つの動機にもとづいているという考えで「探索区域（狭い～広い）x 探索時間（長い～短い）」から成る“ST 2次元空間モデル”（図1に

示す。)を構成し、さらに「モノ探し行動」が進むにつれてこの2次元空間が小さくなるという想定のもとに“STピラミッド型モデル”を提案した(佐々木, 2018)。

この「モノ探し行動」は、上記の二つの動機に関連するさまざまな行為から成り立っているが、それらの行為の全体的な構成は“意思決定過程”としてとらえることができると考え、それを詳細に記述すれば次の9段階(位相)で描くことができるとした(佐々木, 2019)：

- (1)問題認識……“モノ探し”が必要な事態が発生したことを認識する。
- (2)一般的決定……“モノ探し”をするか、しないかを決める。
- (3)基本的方法の選択……“モノ探し”で区域的方法と継時的方法の採用の有無を決める。
- (4)選択肢(探し方)の探索……どんな“探し方”があるかを考え、既知の方法を想起したり、外部に情報を求めたりする。
- (5)選択肢(探し方)の評価……“選択肢の探索”の結果から、成果(探し当てること)に辿りつくのに有望な方法と有望でない方法を識別する。
- (6)試行……もっとも有望だと思われる“方法”で探しはじめる。
- (7)試行結果の評価……その“試行方法”での成否の見込みをつける。
- (8)実行……成否の見込みにより、成果が得られると思えばそれを継続し、成果が得られないと思えば“方法”を変更・修正したり、中断して別の“方法”を採用する。
- (9)終了(達成または中止)……最終的な成果(探し当てること)に到達すれば当然そこで終了し、到達しなくても、その“モノ探し”自体を中止することがある。

ところで、「さがしもの」とか「モノ探し行動」と言えば、普通、これらの位相のうちの“(8)実行”を指すことが多いだろう。そのため、“モノ探し行動”の現象分析を試みようとするならば、この実行段階での具体的行為にまず着目することが必要になる。

そこで、本稿では、まず、モノ探しの具体的行為のリストアップを試みたい。そして、そのリストを分析し、暫定的な知見を得ることにする。しかし、次項で述べるように、本稿で採用したリスト作りの方法はきわめて限定的で便宜的であるため、一つの問題提起の色合いの濃いものである。

I 「モノ探し行動」の具体的行為のリストアップ

(1) モノ探しの具体的行為の収集

モノ探しの具体的行為を知る方法には、探し手の実際の行動の追跡観察、質問紙等による最近の経験の記憶の再生、あるいは、モノ探しの状況を仮設した模擬実験などが考えら

れる。もちろん、文献等で資料として報告されたものがあれば、それを利用することもできよう。

しかし、本稿のために筆者が採用したのは、インターネットで比較的多くのサイトに発表されている「探し物の方法」に関する資料情報である。それは、インターネットでまず「さがしもの」について検索し、「探し物を見つける方法」のカテゴリのなかにある種々のサイトから、「探し物の具体的方法を項目化して列挙しているサイト」に着目するという“やり方”である。そして、掲載している行為項目の“数”や“内容”が多岐にわたるように10サイトを選び、それらの具体的行為をリストアップした。（ちなみに「探し物を見つける方法」というカテゴリのなかには、“おまじない”や“お祈り”などの呪術的方法を述べているサイトも多数ある。）

つまり、本稿での「モノ探しの具体的行為」は筆者によってインターネット情報から恣意的に選び出されたものなので、包括的かつ客観的なリスト内容とは言えないという批判が起ころうすることも予想している。他方で、各サイトの開設者が記載している項目は単なる思い付きではなく、考慮を経たうえで掲出されたものであると考えられ、信頼性が高いと思われる。

こうした収集の結果、作成した「モノ探しの具体的行為」をサイトごとに記載順にしたがって列挙したのが表1である。この表では各サイトにA～Jの記号名称を与えて、最初のA～Cの部分には行為項目の“数”が多い（10項目以上の）サイトを、他方、最後のH～Jの部分にはそれが少ない（4項目以下の）サイトを配置している。これらの2サイト群の間にあるD～Gの4サイトは行為項目数が中間的なものということになる。そのうえで、具体的行為のリストを通覧したところ、その内容が「モノ探し行動」の「行為の実施・遂行」に関するものと「意欲の喚起・保持」に関するものとに大別できると判断して、この2分類にもとづく表示形式をとっている。（項目番号は記載順である。項目の意味が漠然としているものはカッコ内に小文字で内容を補足している。）

表1 モノ探しにおける具体的行為：インターネットの10サイトから

	モノ探し行為の遂行・実施	モノ探し意欲の喚起・保持
A	<p><u>方法2：失くしたものを探す</u></p> <p>2-1 いつも置く場所を探す。 2-2 片づける。 2-3 計画的に探す。 2-4 普通では考えられない場所も探す。 2-5 しっかりと見る。 2-6 ポケットを確認する。 2-7 クルマの中を探す。 2-8 (失くした状況で) <u>自分の行動をやり直す</u>。 2-9 (失くしたことがある) 同じ場所を探す。 2-10 行った場所に電話をかける。 2-11 別の視点から探す。</p>	<p><u>方法1：落ち着く</u></p> <p>1-1 深呼吸する。 1-2 気持ちを落ち着かせる。 1-3 前向きに考える。 1-4 具体的に考える。 1-5 自信を持つ。</p>
	(方法3：失くさないようにする [省略])	
B	<p>4 最初思い浮かんだところを探す。 5 最後に使ったところを思い出す。 6 目の前を探してみる。 7 一度探したところを再確認する。 8 少しずつ過去へ記憶を戻してその時の行動を実際にしてみる。 9 視野を広げて探してみる。 10 探し物に呼びかけてみる。 11 探し物は誰かが持っているかも？ 12 どうしても見つからない時、キッパリ諦める。</p>	<p>1 すぐには探し始めない。 2 探し物は必ず見つかると思える。 3 先ずお茶を飲んで冷静さを取り戻す。</p>
C	<p>3 最後に使ったのはいつか思い出す。 4 ありそうな場所をリストアップ。 5 ありそうな場所を順番に落ち着いて探す。 7 ありそうにないが、可能性としてあるかも知れない場所を探す。 8 他の人が持っているのではないか。 10 それでも見つからなければ断捨離の出番。</p>	<p>1 まず落ち着く。 2 頭の中をクリアにする。 6 探すときは偏見を持たない。 9 休息を取り入れ脳を休める。</p>
D	<p>1 もう一度、最初に探した場所を探す。 2 最初に探した場所の周辺を探す。 3 失くしたモノを言いながら探す。 5 (家でなく) 外出先にある可能性も探る。</p>	<p>4 冷静になって記憶を整理する。</p>
E	<p>1 失くした当日と同じ行動をとりながら思い出す。 2 一番可能性の高い場所では、特に慎重に周りを見渡す。 ① 失くしたと思われる場所に立つ。 ② 落ちているかも知れない場所を30個くらい書き出す。 ③ 失くした物の名前をつぶやき続ける。 ④ 「失くした物」ではなくて「失くした物が見つかる可能性のある場所」を見つけるように心掛ける。</p>	<p>3 とにかく 先入観をなくする。</p>

次頁に続く

F	<ol style="list-style-type: none"> 2 俯瞰し探すエリアを決める。 (確率が高い場所を優先する。) 3 そのエリア内をよく探す。 (徹底的に探し「再度ここを探す必要はない」という確信を持つ。) 4 複数回探す無駄をなくす。 5 極めて確率の低いエリアは除く。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 まずは騒がずに落ち着く。
G	<ol style="list-style-type: none"> 1 まずは冷静に行動を振り返り、同じ行動をする。 2 目だけでなく、五感をフルに使う。 3 丁寧に拭き掃除しながら探す。 5 何周もする。一周で見つかるとは限らない。 	<ol style="list-style-type: none"> 4 イライラしたら休む。
H	<ol style="list-style-type: none"> 2 家の中で同じ行動をして思い出す。 (同じ行動をしつつ周辺を探す。) 4 もう探したからと諦めずもう一度探してみる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 まずは1回落ち着き、冷静になる。 (先入観を捨てる。) 3 いったん探し物を止めて気分転換をする。
I	<ol style="list-style-type: none"> 1 自分の行動を逆算していく。 2 リストを書きだす。 (なくした可能性が高い場所から順に) 3 一番なさそうな場所から探す。 	
J	<ol style="list-style-type: none"> 1 失くした時の状況を思い出す。 2 (家の中で) 探し物がありがちな場所を知っておく。 	

(注1) A～Jの出所(サイト)は本稿末尾の参考資料に一括記載している。

(注2) 「モノ探し行為の実施・遂行」に関する51項目を3区分し、“探索区域(場所)”に関する29項目はゴシック体で、“探索時間”に関する3項目はイタリック体で、“区域と時間の両方”に関する8項目は明朝体太字(下線付き)で、それぞれ示している。その他の11項目は明朝体普通文字で示す。

ここに表示した項目数は全部で69であるが、この2分類によると、「行為の実施・遂行」に関する項目数が圧倒的に多く、51(74%)に及んでいる。他方「意欲の喚起・保持」に関する項目数は18にとどまる。そこで推測されるのは、これらのサイト情報で、その出典・引用先を記載しているのはサイトAだけなので、他の9サイトにはブロガーの経験が整理されて記載されているケースが多いと思われる、その際、「モノ探し」の“前進”に結びつく行為に自ずと注意が傾き、「モノ探し」の“休止”につらなる行為には実際以上に気付いていない(あるいは書洩らしている)のではないかということである。つまり、「行為の実施・遂行」に関する内容には、「モノ探し」で実際に行われている行為が反映されている確率が高いと考えられる。

そのため、本稿での以下の記述・分析はまず「行為の実施・遂行」に関する51項目を中心に行うことにしたい。

(2) モノ探しの具体的行為のリストに関する若干の分析

探索区域と探索時間：

モノ探しの「行為の実施・遂行」に関する51項目のうち29項目(57%)は「探索区域(場

所)」についてのものである。これらの項目は、表1内でゴシック体で示している。他方、「探索時間」については、3項目だけであり、これらはイタリック体で示している。「区域と時間の両方」を表していると思われるのが8項目あるが、これらは明朝体太字（下線付き）で示している。（これらの3区分のどれにも該当しないと思われるものが11項目あり、明朝体普通文字で示した。）

行為項目の内容分析：

ついで、モノ探しの「行為の実施・遂行」に関する51項目を内容にもとづいてカテゴリーに分ける。各カテゴリーには内容を表す短文をつけ、その意味の類似性によってカテゴリーを配列し、該当する項目のサイト記号およびサイト内番号を記す。

- ① 「ありそうなところ」「発見の確率の高い場所」など、発見可能性の高い区域を探す……（13項目）
A 2-1、C 4、C 5、C 7、E 2、E ①、E ②、E ④、F 2、F 3、F 5、I 2、J 2.
- ② 「失くした時、最初にしたことを思い出し、そのことを行う」……（4項目）
A 2-8、B 4、E 1、G 1.
- ③ 「失くした時、最後にしたことから始める」……（3項目） B 5、C 3、I 1.
- ④ 「失くした時の状況を思い出し、それと同じ行動をする」……（4項目+ [②の4項目]） A 2-9、B 8、H 2、J 1.
[②の4項目もこの意味を含んでいる.]
- ⑤ 「手近かなところを探す」……（3項目） A 2-6、A 2-7、B 6.
- ⑥ 「視野を変えて探す」……（4項目） A 2-4、A 2-11、B 9、I 3.
- ⑦ 「一度探したところを再確認する」……（5項目） B 7、D 1、D 2、G 5、H 4.
- ⑧ 「じっくり探す」…（4項目） A 2-5、F 4、G 2、G 3.
- ⑨ 「失くした物をつぶやきながら探す」……（3項目） B 10、D 3、E ③.
- ⑩ 「外出先にある。他人が持っているかも知れない」……（4項目） A 2-10、B 11、C 8、D 5.
- ⑪ 「探すのを止める」……（2項目） B 12、C 10.
- ⑫ その他<カテゴリー化しにくい2項目>……A 2-2 「片づける」、A 2-3 「計画的に探す」。

具体的行為リストにもとづく「モノ探し」の3段階

「モノ探し」の具体的行為を列挙したサイト情報で、それらのリストにおいて「モノ探し」の進行を表す“行為系列”を構成する意図を示していたのは2サイトだけで、Aには“手順”という説明があり、Cでは“ステップ”という表現がタイトルで用いられていた。ただ「失くした時、最初にしたことを思い出し、そのことを行う」という項目をA以外で遂行行為リストの最初にあげていた4サイト（B、E、G、H）では、少なくとも、「モノ探し」の開始の仕方については意識していたであろうが、その後の行為については“系列”を意識している気配は見られない。残りの4サイトでは、それらの行為は並列的に描かれていると理解せざるをえない。

こうしたなかで、上記のようにカテゴリー化した「モノ探しの実施・遂行」の具体的行為を“モノ探しの進行”を表すように再整理してみると、次の3段階を構成することができよう：

1. 開始（カテゴリー①～④、A2-3.）



2. 探索（カテゴリー⑤～⑨、A2-2.）



3. 終了（カテゴリー⑩⑪。）

（注）2の「探索」は、次項で述べるように、“探索地点内行為”を意味している。

この3段階を「モノ探し行動」の意思決定過程（佐々木，2019）のなかに位置づけると、“1. 開始⇒2. 探索”の2段階は「(8)実行」の細部（下位）にあたり、“3. 終了”は文字通り「(9)終了」である。そして“1. 開始”のうちのカテゴリー①は探索区域（場所）やルートをあらかじめ考えることを言い、②～④はモノ探しの“始め方”を表しているが、意思決定過程の「(4)選択肢（探し方）の探索」よりも限定的な意味であり、また「(6)試行」[(7)試行結果の評価]にも関係しないので、「(8)実行」の起点に位置する行為として把握するのが適当だろう。ただ、①は“モノ探し”の区域的方法を、②～④は継時的方法を表す行為であると見ることができる。

（注：「区域的方法」は、紛失した可能性の高い場所・経路などを想起し、その区域を集中的に探すこと。また「継時的的方法」は、紛失した可能性の高い状況を時間的順序に従って、その順序で追跡すること。（佐々木，2018.））

具体的行為が行われる機会——“小さなモノ探し”

「モノ探し」の具体的行為リストのほとんどは“小さなモノ探し”（佐々木，2019）での

行為を示したものである。A、C、D、E、H、Iでは、そのことがリストの説明文から読み取れるし、B、Gでも示唆されている。具体的行為の表記それ自体でも、たとえば A2-1、A2-2、A2-6、D5、G3、H2、J2などは“家の中”を意味している。

このように見ると、本稿の表1で示し、さらに若干の分析を施した「モノ探し」の具体的な行為のリストは、日常的な「モノ探し」の実際を相当程度とらえていると言えるのではないだろうか。

(3) 「モノ探し」の具体的な行為のデータ収集の問題

インターネットの利用について

今日では日常的情報のみならず学術的情報の収集におけるインターネット利用はごく一般的な手段になっている。筆者の「“モノ探し行動”についての小考」第1稿（佐々木、2018）でも参考文献である公的統計・調査データをインターネット発表に依存していた。本稿での具体的な行為データもインターネット・サイトに発表されている「探し物の方法」に関する記事から得たもので、比較的多岐にわたる内容を短期間で得ることができた。これらの情報は、個別面接調査で得られるような「ナマ（生）」のものではないが、各開設者によって整理された簡潔なもので、基本的な内容を含んでいると見ることができる。かりに学術論文のなかでこの種のデータが報告されるとすれば、無駄なくまとめられた内容の項目群が示される形になることが想像され、その点では情報の「ナマ（生）」度がさらに減じられるのではないだろうか。

ただ、表1から伺えるように、このデータでは具体的項目の“数”にサイト間で大きな違いがあった。それは、コンテンツの作り方に饒舌か寡黙かという差があるからだろうが、多数意見を採用するという投票方式ではないにしても、研究的データとして利用するためには、なんらかの“記載閾値”のようなレベルを設けることができれば、それに越したことはないであろう。たとえば、行為の“経験頻度”で一定レベルを越えるものをデータ化するというような試みである。

また、サイト間の“独立性”については確認することができない。開設者が他のサイトのコンテンツを見て自分の書き込みをするということがあるかも知れない。本稿でのデータ処理のように、具体的な行為のリストを作るだけの場合にはあまり影響しないと思われるが、行為の強弱や広がりなど“程度”を把握する際には、この点のチェックが必要になるだろう。

データの増強の問題

本稿でのデータ収集先は10サイトにとどまっているが、サイト数を増やすことがどれほど有効かは分からない。今後、調べることが必要だろうが、「モノ探し行動」の分析課題を何に求めるかという問題との関連で、考慮すべき事柄ではなかろうか。本稿での収集方法では、「モノ探し」の“実施・遂行”面の“実行”段階に多くの行為項目が集まった。行為の実質的效果や多様性によるからだろうが、これが偏りであるならば解消することが望ましいし、そのための収集方法を検討することが必要である。

Ⅱ モノの“探し方”のモデル

(1) “探し方”のモデル化のための具体的行為リストの検討

前項の表1にリスト化されている「モノ探し」の“具体的行為”は、主に“小さな探し物”に関するものであるが、「モノ探し行動」を論じた筆者の前2稿（佐々木，2018；2019）では取り上げなかった新しいデータである。このデータにもとづく“具体的行為”レベルでの「モノ探し行動」に関して、多少なりとも体系的な知見を得たいと思う。

そこで、本項では、モノの“探し方”に関する行動モデルの作成を試みたいと思う。

その際、「モノ探し行動」の基本モデルとして佐々木（2018）が提案している、図1に示した“ST 2次元空間モデル”をベースにして、より具体的な行動現象を2次元の図式モデルで表してみたい。

ところで、表1の具体的行為リストにもとづいて行った前項(2)での「行為項目の内容分析」では、モノ探しの「行為の実施・遂行」に関する51項目を①～⑫のカテゴリーに分類

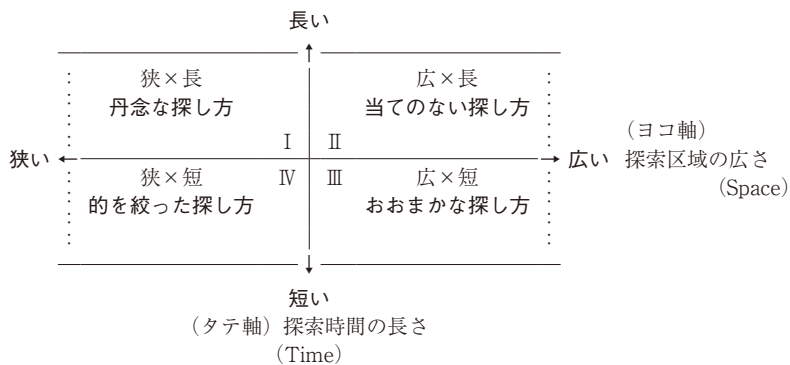


図1 モノ探し行動に関する ST 2次元空間モデル（佐々木，2018）

したが、それらは、さらに、次のように区分できる：

- i. 失くした物を発見できそうな地点・場所（注：本稿では「探索地点」と呼ぶ。）に近づく“方略”を意味するカテゴリー（①～④）。
- ii. 失くした物を発見できそうな探索地点のなかで行う“所作・動作”を意味するカテゴリー（⑤～⑨）。
- iii. 探す行為を止めることを意味するカテゴリー（⑩⑪）。
- iv. その他（⑫）。

このうち“探し方”について述べているのは i. と ii. であり、i. は「モノ探し」の探索地点への“接近”の仕方を、また ii. は「モノ探し」をする“個別の探索地点内での行為の形（所作、動作）”を表している。これら2タイプの行為の間には、自ずと、目的や形態の違いがあるので、それぞれで2次元図式モデルを作成したい。そして、i. に関しては「接近方略モデル」、ii. に関しては「探索地点内行為モデル」と称することにする。

(2) 接近方略モデル

このモデルは、「モノ探し」を始めるにあたり、どの探索地点へ行くかという方向づけをする“方略”を選ぶ行為を位置づける体系になる。

そうした意図で上記の区分のなかの i. に含まれる①～④のカテゴリーを見ると、そこには次の2タイプがあることが分かる：

- (i a.) 失くした物が発見できる可能性が高い地点・場所（探索地点）に重点的・選択的に着目する（カテゴリー①）。

（注：これは「探索地点への“区域的方法”による接近」といえ、第1稿で「蛙飛び式」と俗称したものに当たるが、「蛙跳び式」と表記を訂正する。）

- (i b.) 失くした時の状況を思い出し、その時の行動の順に探索地点に着目する（カテゴリー②～④）。

（注：これは「探索地点への“継時的的方法”による接近」で、第1稿で「蛙泳ぎ式」と俗称したものに当たる。）

そこで、この「接近方略モデル」の2次元の第1軸（縦軸）には「区域的方法による接近」を、また第2軸（横軸）には「継時的的方法による接近」を、それぞれ配置することにする。

こうして作成されるのが、図2である。ただし、I～IVの各象限を特徴づける“接近の仕方”のフレーズは例示的なものである。

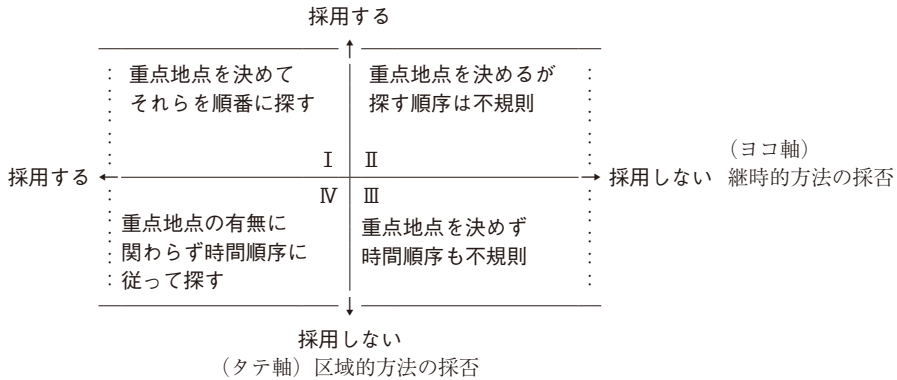


図2 モノの探し方に関する「接近方略モデル」

(注) 「区域的方法」は、紛失した可能性の高い場所・経路などを想起し、その区域を集中的に探す方法。
「継時的方法」は、紛失した可能性の高い状況を時間的順序に従って想起し、その順序で追跡する方法。

(3) 探索地点内行為モデル

探し物をする地点・場所内での探索に関するカテゴリ⑤～⑨は、モノ探しの“現場”での行為を表している。それらは概して“慎重な探し方”や“注意深い探し方”を意味するものが多いが、カテゴリ⑤「手近なところを探す」だけは“比較的安易な探し方”を意味していると思われる。

そこで、この違いにヒントを得て、第1軸（縦軸）には次の特性を設定する：



この特性は、言うまでもなく、探し手の取り組みの態度を表している。

他方、第2軸（横軸）には、適当な特性を具体的行為リストに求めることができなかった。そこで、一つの探索地点のなかでの「探し方」の動作に影響し関連が深いと考えられる、“探索地点内で失くしたと疑われる個所が「少ない～多い」”という特性を当てることにした。この特性は、モノ探しをする探索地点の広さとは基本的には無関係で、その地点の固有の条件（たとえば、設置物の性質・内容や多寡、整理整頓の程度、他の地点との空間的・時間的な遠近、など。）からも比較的独立している。しかし、その「少ない～多い」の程度は、探し手の認知や見込みに依存しているので、探索地点内行為におおいに影響するものと考えられる。

こうした考えから作成されるのが、図3である。言うまでもなく、前図と同様に、I～IVの各象限の「探し方」の特徴として記入しているフレーズは例示的なものである。

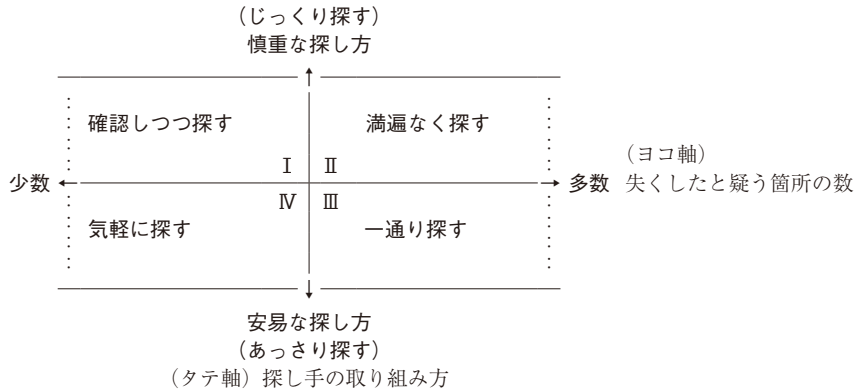


図3 モノの探し方に関する「探索地点内行為モデル」

(4) 「モノの探し方」のモデルの提案

本稿では、「モノ探し行動」に関する基本モデルである“ST 2次元空間モデル”をベースにして、「探し方」についての二つのモデル、「接近方略モデル」と「探索地点内行為モデル」を新たに提案した。

これらの二つのモデルは、“ST 2次元空間モデル”が「モノ探し行動」の一般的性質を描いているのに対して、その「探し方」に特化したもので、いわば「一般的↔具体的な」の関係にある。また、これらの「探し方」の2モデルは異なる行動的位相（段階）を扱っており、位相1＝接近方略モデル、位相2＝探索地点内行為モデル、という位置づけができる。つまり、本稿で提案した2モデルは、モノ探しの実際状況により近づいた行動現象を描くものであると言えよう。

しかし、これらのモデルの作成では実証的裏付けを欠いていることは否定できない。ただ、これらのモデルが、「モノ探し行動」の実証的研究へのヒントになり、その手掛かりとなって、その促進に寄与できるのではないかと考えている。

Ⅲ 分析を補充すべき側面

(1) 「モノ探し意欲の喚起・保持」に関する行為の分析

インターネットで収集した“モノ探し”の具体的行為のリスト（表1）のうちで、これまで分析してきたのは「モノ探し行為の遂行・実施」に関するものに限られ、「モノ探し意欲の喚起・保持」に関しては一切触れていなかった。そのため、ここで「意欲の喚起・保

持」に関する18項目から知りうる次の点を留意しておきたい：

- (a) これらの項目は、前述した“モノ探しの進行”を表す3段階（1. 開始→2. 探索→3. 終了）のうちの“開始”と“探索”に主に関連しているが、なかには進行過程の全段階に関連すると思われる内容も見られる。
- (b) これらの項目の内容は「前向きに、自信を持って、先入観なく、」というような“ポジティブ（positive）な態度”を表すものと、「落ち着いて、冷静に、休みながら、」という“クール（cool）な態度”を表すものとに大別される。
- この留意にもとづいて、表1のリストに示されている項目を再整理したのが表2である：

表2 「モノ探し意欲の喚起・保持」に関する18項目の分類
(ゴシック体の項目は他の段階にも関連するもの。)

内容の意味 関連する段階	ポジティブな態度	クールな態度
主に “開始”	A1-3 前向きに考える。 A1-4 具体的に考える。 A1-5 自信を持つ。 B2 探し物は必ず見つかりと信じる。	A1-1 深呼吸する。 A1-2 まず落ち着く。 B1 すぐには探し始めない。 B3 先ずお茶を飲んで冷静さを取り戻す。 C1 まず落ち着く。 C2 頭の中をクリアにする。 D4 冷静になって記憶を整理する。 F1 まずは騒がずに落ち着く。 H1 先ずは一回落ち着き、冷静になる。(先入観を捨てる。)
主に “探索”	C6 探すときは偏見を持たない。 E3 とにかく、先入観をなくする。	C9 休息を取り入れ脳を休める。 G4 イライラしたら休む。 H3 いったん探し物を止めて気分転換する。

この表2では、各項目を、主に関連する段階が「開始か、探索か」で分けているが、“進行過程の全段階に関連する”と思われる内容のものはゴシック体で示している。また、その内容を「ポジティブな態度か、クールな態度か」という2区分でとらえることが無理な項目もあるが、あえて分類している。この特性は「モノ探し行動」における基本的特徴の一つであると考えられる。

(2) “モノ探し行動”の意思決定過程の諸段階での“行為”

“モノ探し行動”の意思決定過程は本稿の冒頭に9段階で示しているが、これまでの分析はそのうちの「(8)実行」に関する具体的行為について行ったものである。他の8段階のう

ちで何らかの具体的行為が見られるのは主に「(6)試行」においてである。ただし、その段階(6)での行為の現れ方は基本的には「(8)実行」と同じであると考えられる。また「(8)実行」が「(6)試行」を含んで行われることも多く、モノ探し行動の「試行」については、その心理的根拠によらない限り、独自の特徴を見出しにくいのではないと思われる。

他の諸段階で表わされる具体的行為は比較的少ないだろう。“選択”“探索”“評価”“決定”などでは、実体験を伴う“行為”ではなく、情報や記憶にもとづく“イメージ”に依存して行なわれることが多いだろう。そうした認知作用の心理的側面は外形としてとらえることが困難で、それが言語表現された形を理解することが重要になるだろう。

さらに“探し方”というアクションが対象になる場合には、生活財や商品のような“モノそれ自体”の購入や採用の場合とは異なる様相があることを想定しなければならない。生活財や商品では、実際に“使用”しなくても見るだけでの比較・選択も可能であったり、その機能や利便性を評価することがあるが、「探し方」では“行為それ自体”が対象になり、その行為の有効性は「してみなければ分からない」からであり、それは、すでに「(8)実行」の一部になっていることが多い。

IV 本稿のむすび

「モノ探し」の中心を成す行動は「モノの探し方」にあると考えられるので、“モノ探し行動”を考えるとすれば、どうしても扱わなければならないのが、その具体的行為である。そのデータを、本稿ではインターネット情報から収集し、その若干の分析にもとづく体系化の試みとして二つの2次元モデル——接近方略モデル、探索地点内行為モデル——を提案した。

ただ、限られた情報源に依存した作業であり、その情報内容にも偏りがあるのではないかとも思われるので、今後、これらのモデルにも修正を加えることが必要だろうと考えている。さし当り、「モノ探し」の具体的行為データを多角的に収集することは言うまでもないが、その行為レベルを揃えることや語句の曖昧さをなくすることなど、収集技法を検討することが求められるだろう。また、本稿で扱った具体的行為には“探索時間”に関するデータが乏しかったが、これは“ST2次元空間モデル”の構成にも関わることなので、それが実態に見合っているかどうかを確かめることも必要である。

「モノ探し」はごく日常的で普遍的な行動である。それだけに「効果的な探し方」とか「賢い探し方」というようなハウ・ツー知識が求められることも多い。そのこと自体は「モ

「モノ探し行動」の理論的研究や実証的分析に対する“刺激”になるのは確かだが、ハウ・トゥー知識の根拠には確かな心理学的知見があってほしいと思う。そうした知見の集積の道程に、筆者の“小考”が役立つことを望んでいる。

参考資料

文献

- 佐々木土師二（2018）“モノ探し行動”についての小考：「STピラミッド型モデル」の提案．関西大学社会学部紀要，第50巻第1号．75-88.
- 佐々木土師二（2019）“小さなモノ探し”の行動論的分析：“モノ探し行動”についての小考(2)．関西大学社会学部紀要，第50巻第2号．79-90.

インターネット

- A：失くした物を見つける方法。
<https://www.wikihow.jp>
- B：探し物がみつからないのはなぜ？ 探し方のコツ。
<https://mindhacking.xyz//tips-to-find-something/>
- C：探し物（鍵など）を見つける効果的な方法。10のステップで着実に探す。
<https://minimalist.com//how-to-find-lost-objects>
- D：これで見つかる！ 探し物を効率的に探すための5つの方法。
<https://sig-sig.com/sagasimono-kourituteki-sagasu-houhou-1361>
- E：落とし物、なくしたものを確実に見つける探し方。
<https://matome.naver.jp/odai/>
- F：探し物がみつからない... 見つける合理的な方法がある。
<https://self-esteem.hatenablog.jp/entry/2018/04/14>
- G：ほぼ100%！探し物が見つかる最強マニュアル！見つける方法・コツからおまじないまで大公開。
<https://maiuma.com/perfect-guide-to-finding-lost-objects/>
- H：探し物が家の中で見つからない！見つけるコツは？
<https://oyakunitatemasu.net/sagashimonoie/>
- I：探し物のプロが教える失くし物の探し方。
<https://tanteitalk.com/pet/nakushimono/>
- J：家の中で探し物を見つける3つのコツ！
<https://www.ihin-fundex.com/find-lost-objects-in-the-house>

